★　以下を留意して「個別の指導計画」を作成する。なお、様式については、組織的に作成・実践・評価する中で、表記や様式を工夫してもよい。
★　第三者が見ても分かるよう、具体的に書くことを心がけ、切れ目のない支援を行う。

令和２年２月改訂

個　別　の　指　導　計　画（作成上の留意点）

作成日	年　　月　　日　（　　）	記入者		評価計画	
氏名	ふりがな	生年月日	年　　月　　日	診断等	
		クラス	歳児　　組		
保護者の願い		担任の願い			
専門家からの助					

どのくらいの期間で評価し、見直していくか。

発達上気になること　、　障害の種別　、
健康面　・手先の動き　、　制限や制約など。

本人の特徴的なことが分かる項目に記入する。（全項目でなくてもよい）

	子どもの実態	考えられる背景・要因	長期・短期の目標	援助・指導方法（手立て・場）	子どもの変容	評　　価
生活習慣						
コミュニケーション言葉						
遊び						
人とのかかわり集団への参加						
その他						

子どもを主語にして、それぞれの場面での姿を具体的に記入する。
支援方法を明確にするために、必要に応じて、１人で取組が可能なことや難しいこと、強みとなるプラス面も明確に記入する。

身辺自立（排泄・食事・着脱・片付けなど）

子どもの実態に記載した姿の背景　・要因として考えられることを記入する。

言語の様子（1語文　・　2語文など）
言語と行動のつながり　・　要求の言語化や表現方法
相手の言葉に対する理解　・　応答　　1対1対応時の理解

どのような育ちを願うのか保育者の願いを、子どもの姿で具体的に記入する。
「〇〇しない」などの否定的な目標でなく、成功体験や「快」感覚の言語化を意識する。

好んで行う遊びや遊び方　　感覚機能など
こだわり場面での様子　・　行動　　初めての場面での様子や行動
衝動的な行動や不注意　　表情や姿勢（体の決まり方）　など

保育者の立場でねらいを達成するために、どのような援助をどのような場面で行うか、興味・関心に基づいた援助など具体的に記入する。
評価も生かし、次の援助や指導方法を付け加える。

集団での活動への参加の仕方　　集団の中での話の理解度　・集中度　・集中時間
集中できない時の行動の特徴　　模倣の様子
人とともに生活する喜びや楽しむ感覚　　相手への理解や思いやり
協力する態度や認め合う喜びの視点　　など

援助を行った結果、どのような子どもの姿が見られたか具体的に記入する。
どのような時にうまくいったかも記入する。

具体的な状況と援助を照らし合わせ評価をする。
評価を生かして次の援助・指導を考え、該当欄にリンクして付け加えていく。

上記に当てはまらないこと。ケースによっては、家庭支援の内容も含めることができる。
効果的な指導にしていくには、保護者の理解と協力を得られるよう説明することなど、家庭との連携が重要となる。

※　計画の修正について：保育する中で得られた情報をもとに実態把握をさらに進め、修正していく。修正部分は取り消し線などで残し、その経緯や理由が分かることも大切。